

FY2022 3Q

2022年度 第3四半期 決算説明資料

2023年2月8日

1. 2022年度 第3四半期実績

2. 2022年度 通期業績予想

3. 参考資料

1

2022年度 第3四半期実績

2022年度 第3四半期 3カ月実績

2022年度 第3四半期 3カ月実績

(単位：億円)

	FY2021Q3実績	FY2022Q3実績	前年同期比
売上高	1,154	1,483	+329
植物性油脂事業	347	523	+175
業務用チョコレート事業	502	619	+117
乳化・発酵素材事業	218	252	+33
大豆加工素材事業	86	89	+2
営業利益	40	37	▲3
植物性油脂事業	14	19	+5
業務用チョコレート事業	24	14	▲10
乳化・発酵素材事業	7	9	+2
大豆加工素材事業	3	4	+1
グループ管理費用等	▲9	▲9	▲1
営業利益率	3.5%	2.5%	▲1.0pt
経常利益	41	30	▲11
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	18	▲15

売上高 1,483億円 前年同期比+329億円

パームなどの原料価格の上昇による販売価格の上昇、為替円安の影響により大幅増収



原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇
北米新工場の稼働による販売数量の増加などにより増収



為替円安の影響、原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収



中国大豆たん白食品事業の譲渡や日本の販売数量の減少も、
原材料価格上昇に伴う販売価格上昇により増収

営業利益 37億円 前年同期比▲3億円

販売価格対応に注力したものの、ブラマーの販売数量の減少、北米油脂の採算性低下と新工場稼働に伴う経費増により減益



北米での採算低下はあったものの、日本での採算の改善により増益



北米や日本での販売数量の減少を主因に減益



中国での販売数量の減少も、日本の販売伸長、東南アジアの採算の改善により増益

2022年度 第3四半期 累計実績

2022年度 第3四半期 累計実績

(単位：億円)

	FY2021Q3累計実績	FY2022Q3累計実績	前年同期比
売上高	3,199	4,167	+968
植物性油脂事業	964	1,537	+572
業務用チョコレート事業	1,378	1,674	+296
乳化・発酵素材事業	595	698	+103
大豆加工素材事業	262	258	▲4
営業利益	119	88	▲31
植物性油脂事業	57	52	▲4
業務用チョコレート事業	52	41	▲12
乳化・発酵素材事業	16	9	▲7
大豆加工素材事業	21	13	▲8
グループ管理費用等	▲27	▲28	▲1
営業利益率	3.7%	2.1%	▲1.6pt
経常利益	118	84	▲34
親会社株主に帰属する四半期純利益	94	51	▲43

売上高 4,167億円 前年同期比+968億円

パームなどの原料価格の上昇による販売価格の上昇、為替円安の影響により大幅増収。



原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇
北米新工場の稼働による販売数量の増加などにより増収



為替円安の影響、原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収



日本での原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇はあったものの、中国大豆たん白食品事業の譲渡により減収

営業利益 88億円 前年同期比▲31億円

原材料価格上昇に対応し価格改定を実施したものの、一部未達に加え、販売数量の減少、北米油脂事業の採算性低下により減益



東南アジアでの堅調な販売はあったものの、原材料価格上昇に伴う採算低下、北米新工場の低稼働により減益



ブラジルや欧州での販売数量の増加はあったものの、北米や日本での販売数量の減少により減益

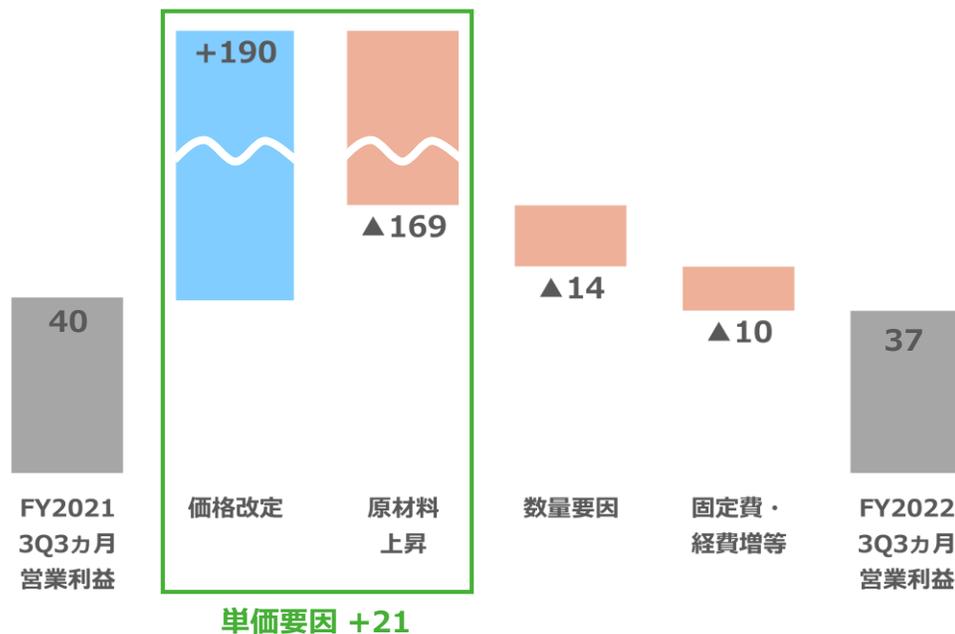


機能剤の販売伸長はあったものの、大豆たん白素材の販売数量の減少により減益

2022年度 第3四半期 営業利益増減分析

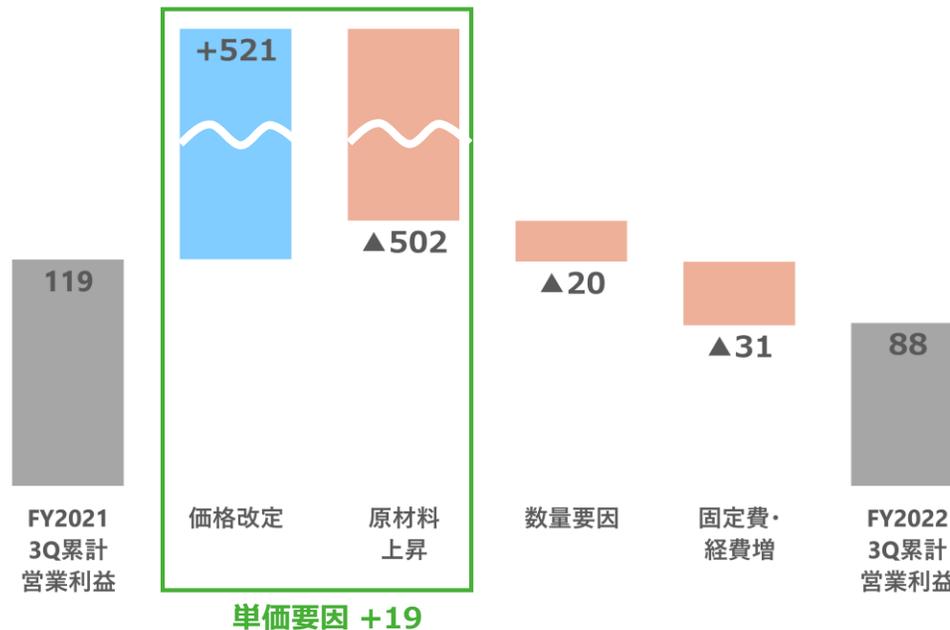
第3四半期(3カ月) 前年同期比

(単位：億円)



第3四半期(累計) 前年同期比

(単位：億円)



単価要因	日本の油脂や乳化・発酵、ブラマーを中心に価格改定が浸透し採算性が改善。
数量要因	ブラマーや日本の業務用チョコレート、中国の乳化・発酵での販売数量が減少。
固定費・経費	ブラマーの人件費・物流費の増加等。

単価要因	日本・中国での価格改定が遅れるも、東南アジアの油脂やブラマーで採算が改善。
数量要因	オイルシーズの新規連結や日本の油脂、ハラルドの伸長が寄与するも、ブラマー、中国の乳化・発酵などで数量が減少。
固定費・経費	北米油脂新工場稼働による固定費や、ブラマーの人件費・物流費の増加等。

* ブラマー：業務用チョコレート事業・米州(北米)、ハラルド：業務用チョコレート事業・米州(ブラジル)、オイルシーズ：植物性油脂事業・米州

2022年度 第3四半期 累計実績 セグメント別概況 植物性油脂事業



植物性油脂事業

(単位：億円)

	FY2021Q3 累計実績	FY2022Q3 累計実績	前年 同期比
売上高	964	1,537	+572
日本	320	422	+101
米州	303	598	+294
東南アジア	145	243	+97
中国	22	27	+5
欧州	173	247	+74
営業利益	57	52	▲4
日本	30	27	▲3
米州	3	▲7	▲10
東南アジア	15	28	+13
中国	▲0	▲2	▲2
欧州	9	7	▲2
連結調整等	0	▲1	▲1

営業利益 概況

上期では原材料価格の上昇による価格改定の遅れがあったものの、第3四半期では価格改定の浸透が進み、日本を中心に採算性が改善。一方、米州で、採算性の低下や新工場のインフラ整備の遅れにより、第3四半期での販売数量を伸ばすことができず、経費負担が響く。

営業利益 エリア別

- 日本 : 第3四半期にかけて採算性の改善がみられたものの、上期を中心に原料高の影響により減益。
- 米州 : 原材料高に伴う採算性の低下に加え、新工場のインフラ整備の遅れにより減益。
- 東南アジア : 販売が堅調に推移したことに加え、マレーシア子会社での採算改善などにより伸長。
- 欧州 : 販売数量の減少により減益。

2022年度 第3四半期 累計実績 セグメント別概況 業務用チョコレート事業



業務用チョコレート事業

(単位：億円)

	FY2021Q3 累計実績	FY2022Q3 累計実績	前年 同期比
売上高	1,378	1,674	+296
日本	297	315	+18
米州	909	1,132	+223
東南アジア	88	120	+32
中国	49	54	+5
欧州	35	54	+19
営業利益	52	41	▲12
日本	48	42	▲6
米州	▲1	▲9	▲8
東南アジア	3	4	+0
中国	1	0	▲1
欧州	1	3	+2
連結調整等	0	1	+1

営業利益 概況

価格改定は浸透し採算が改善。

一方、北米や日本での消費の冷え込みにより販売数量が減少。

ブラマーでは、第2四半期に発生したカカオ加工設備不良による販売数量の減少や採算性の低下により減益。

営業利益 エリア別

日本 : 販売数量の減少により減益。

米州 : ハラルドは、販売が堅調に推移。
ブラマーは、カカオ加工設備不良により販売数量が減少、
低糖チョコレートの販売も低迷。

東南アジア : インドネシアは前年度からの販売回復。
豪州は、原材料高の影響あるが、販売は堅調。

中国 : ロックダウン明けでの特需があったものの
販売数量が減少し減益。

欧州 : 土産向けなどの販売数量伸長により増益。



乳化・発酵素材事業

(単位：億円)

	FY2021Q3 累計実績	FY2022Q3 累計実績	前年 同期比
売上高	595	698	+103
日本	392	438	+46
東南アジア	84	123	+39
中国	119	137	+18
営業利益	16	9	▲7
日本	16	18	+2
東南アジア	▲6	▲6	▲1
中国	4	▲3	▲7
連結調整等	2	0	▲2

営業利益 概況

上期では価格改定の遅れにより採算が低下していたが、第3四半期より価格改定は浸透。東南アジアは、第3四半期3カ月では黒字に転換。日本では、価格改定の浸透に加え、スポット需要の取り込みなどクリーム、マーガリン、フィリングの販売数量が増加。

一方、中国ではロックダウンの影響により、販売数量が減少。新商品の拡販も進まず減益となった。

営業利益 エリア別

日本 : 販売価格改定の浸透に加え、クリームの販売伸長などにより増益。

東南アジア : 販売価格改定の浸透が徐々に進んだことにより、採算は第3四半期にかけて改善が進んだものの、上期での遅れなどにより減益。

中国 : 採算性改善に取り組むも、ロックダウンなどの影響により、フィリングの販売数量が減少し減益。

2022年度 第3四半期 累計実績 セグメント別概況 大豆加工素材事業



大豆加工素材事業

(単位：億円)

	FY2021Q3 累計実績	FY2022Q3 累計実績	前年 同期比
売上高	262	258	▲4
日本	246	250	+4
中国	16	8	▲8
欧州	—	—	—
営業利益	21	13	▲8
日本	20	13	▲8
中国	3	2	▲0
欧州	▲2	▲2	+0
連結調整等	0	0	+0

営業利益 概況

日本では、第3四半期に飲料向けの機能剤が伸長するも、飲料向けの大豆たん白素材の減少や、給食・宅配需要向けの大豆たん白食品の販売数量が減少。

営業利益 エリア別

- 日本 : 販売価格改定の遅れ、販売数量の減少により減益。
- 中国 : 機能剤の販売が堅調。
- 欧州 : 来年度稼働予定の新工場の費用が先行。

第3四半期累計：売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

不二製油グループ本社株式会社

（単位：百万円）

売上高	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
植物性油脂	FY2022 3Q	42,162	+10,142	59,781	+29,432	24,273	+9,735	2,693	+467	24,748	+7,449	153,659	+57,223
	FY2021 3Q	32,020	+5,658	30,349	+8,122	14,538	+3,745	2,226	+133	17,299	+6,613	96,435	+24,272
	FY2020 3Q	26,362	-	22,227	-	10,793	-	2,093	-	10,686	-	72,163	-
業務用チョコレート	FY2022 3Q	31,478	+1,821	113,215	+22,271	11,955	+3,155	5,428	+506	5,363	+1,866	167,441	+29,618
	FY2021 3Q	29,657	+3,099	90,944	+8,542	8,800	+1,914	4,922	+882	3,497	+1,291	137,822	+15,727
	FY2020 3Q	26,558	-	82,402	-	6,886	-	4,040	-	2,206	-	122,094	-
乳化・発酵素材	FY2022 3Q	43,768	+4,584	-	-	12,320	+3,894	13,718	+1,842	-	-	69,807	+10,318
	FY2021 3Q	39,184	+1,202	-	-	8,426	+1,597	11,876	+3,095	-	-	59,488	+5,894
	FY2020 3Q	37,982	-	-	-	6,829	-	8,781	-	-	-	53,593	-
大豆加工素材	FY2022 3Q	24,981	+389	-	-	-	-	797	▲799	-	-	25,779	▲410
	FY2021 3Q	24,592	+563	-	-	-	-	1,596	+333	-	-	26,189	+896
	FY2020 3Q	24,029	-	-	-	-	-	1,263	-	-	-	25,292	-
売上高計	FY2022 3Q	142,390	+16,935	172,997	+51,703	48,550	+16,784	22,637	+2,015	30,111	+9,315	416,687	+96,750
	FY2021 3Q	125,455	+10,523	121,294	+16,664	31,766	+7,258	20,622	+4,444	20,796	+7,903	319,936	+46,791
	FY2020 3Q	114,932	-	104,630	-	24,508	-	16,178	-	12,893	-	273,144	-

営業利益	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
植物性油脂	FY2022 3Q	2,716	▲326	▲719	▲975	2,793	+1,316	▲161	▲152	672	▲193	▲59	▲93	-	-	5,242	▲422
	FY2021 3Q	3,042	▲155	256	▲924	1,477	+577	▲9	▲151	865	+812	34	▲77	-	-	5,665	+79
	FY2020 3Q	3,197	-	1,180	-	900	-	142	-	53	-	111	-	-	-	5,586	-
業務用チョコレート	FY2022 3Q	4,234	▲584	▲925	▲801	351	+27	25	▲76	326	+224	77	+60	-	-	4,090	▲1,150
	FY2021 3Q	4,818	+631	▲124	▲1,016	324	+62	101	+261	102	▲133	17	▲11	-	-	5,241	▲203
	FY2020 3Q	4,187	-	892	-	262	-	▲160	-	235	-	28	-	-	-	5,445	-
乳化・発酵素材	FY2022 3Q	1,795	+218	-	-	▲624	▲68	▲256	▲703	-	-	21	▲159	-	-	936	▲712
	FY2021 3Q	1,577	+559	-	-	▲556	▲513	447	▲654	-	-	180	+48	-	-	1,648	▲559
	FY2020 3Q	1,018	-	-	-	▲43	-	1,101	-	-	-	132	-	-	-	2,208	-
大豆加工素材	FY2022 3Q	1,272	▲775	-	-	-	-	233	▲22	▲206	+25	38	+7	-	-	1,337	▲764
	FY2021 3Q	2,047	▲660	-	-	-	-	255	▲68	▲231	▲191	31	+82	-	-	2,102	▲835
	FY2020 3Q	2,707	-	-	-	-	-	323	-	▲40	-	▲51	-	-	-	2,938	-
連結調整	FY2022 3Q	118	+14	▲13	▲15	▲13	▲12	21	+15	▲91	▲88	▲38	+70	-	-	▲17	▲17
	FY2021 3Q	104	+78	2	▲4	▲1	▲3	6	▲8	▲3	▲95	▲108	+35	-	-	-	-
	FY2020 3Q	26	-	6	-	2	-	14	-	92	-	▲143	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2022 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,814	▲79	▲2,814	▲79
	FY2021 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,735	▲78	▲2,735	▲78
	FY2020 3Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲2,656	-	▲2,656	-
営業利益計	FY2022 3Q	10,137	▲1,453	▲1,657	▲1,791	2,506	+1,262	▲136	▲936	701	▲32	38	▲116	▲2,814	▲79	8,776	▲3,147
	FY2021 3Q	11,590	+452	134	▲1,945	1,244	+122	800	▲622	733	+393	154	+78	▲2,735	▲78	11,923	▲1,598
	FY2020 3Q	11,138	-	2,079	-	1,122	-	1,422	-	340	-	76	-	▲2,656	-	13,522	-

*2021年度から、大豆加工素材事業に含まれていた豆乳及びUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に変更したため、2020年度実績を溯及修正して表示しています。

B/S・C/F・配当方針

B/S

- ・FY2022 第3四半期末：
原料価格上昇により運転資金が増加し
資産及び有利子負債が増加

単位：億円

項目	FY2021 期末	FY2022 3Q末
現預金等	159	170
のれん（広義）	499	627
資産合計	4,166	4,999
有利子負債	1,488	1,855
負債合計	2,271	2,800
純資産合計	1,895	2,199

項目	FY2021 期末	FY2022 3Q末
ネットD/Eレシオ*	0.73倍	0.90倍
自己資本比率	44.7%	42.4%

* Net有利子負債÷株主資本

C/F

- ・FY2022 第3四半期末：
原料価格の上昇による運転資金の増加等により
営業CFは前期比減少。設備投資は計画並みに
進捗

単位：億円

項目	FY2021 3Q累計	FY2022 3Q累計
営業CF	168	▲139
設備投資額	138	151
FCF	▲112	▲251
CCC (日)	110	120

配当方針

- ・FY2022予想
期初計画から変更なし

FY2022 予想

- ・52円/年間を予想。
(中間26円、期末26円)

2

2022年度 通期業績予想

2022年度 通期業績予想

2022年度 通期業績予想

(単位：億円)

	FY2021実績	FY2022修正予想 (2023年2月)	前期比	FY2022前回予想 (2022年11月)	FY2022前回予想比 2023年2月vs2022年11月
売上高	4,338	5,500	+1,162	5,500	-
植物性油脂事業	1,350	2,005	+655	1,966	+39
業務用チョコレート事業	1,855	2,255	+400	2,221	+34
乳化・発酵素材事業	791	908	+117	935	▲27
大豆加工素材事業	342	332	▲10	378	▲46
営業利益	150	135	▲15	165	▲30
植物性油脂事業	74	75	+1	92	▲17
業務用チョコレート事業	75	67	▲8	79	▲12
乳化・発酵素材事業	16	16	▲0	19	▲4
大豆加工素材事業	21	16	▲6	15	+0
グループ管理費用等	▲37	▲38	▲1	▲41	+2
営業利益率	3.5%	2.5%	▲1.0pt	3.0%	▲0.5pt
経常利益	144	125	▲19	158	▲33
親会社株主に帰属する当期純利益	115	80	▲35	105	▲25

営業利益 前期比▲15億円

前期比では、原料高に伴う採算の低下に加え、日本やブラマー、中国での販売数量の減少により減益の計画

-  北米での採算の低下と新工場の稼働に伴う経費の増加はあったものの、東南アジアの伸長、下期における日本での採算が改善
-  ハラルドは伸長するものの、日本やブラマーでの販売数量が減少
-  機能剤の販売伸長はあったものの、大豆たん白素材の販売数量が減少

営業利益 前回予想比▲30億円

2022年11月予想比では、北米油脂の採算性改善の遅れ、日本や中国での販売数量の減少により下方修正

-  北米油脂の採算性改善の遅れに加え、新工場の低稼働により下方修正
-  日本などでの販売数量の減少などにより下方修正
-  東南アジアや中国での改善の遅れ、販売数量の減少により下方修正

2022年度 通期業績予想 修正内容について



植物性油脂事業

(単位：億円)

	FY2021 実績	FY2022 修正予想 2023年2月	前期比	FY2022 前回予想 2022年11月	FY2022 前回予想比
営業利益	74	75	+1	92	▲17
日本	38	33	▲5	37	▲4
米州	3	2	▲1	20	▲18
東南アジア	21	31	+10	26	+5
中国	0	▲1	▲1	▲1	+0
欧州	12	10	▲3	11	▲1
連結調整等	▲1	0	+1	▲1	+1

営業利益 修正内容

日本では、採算性の改善は計画通り進捗するも、チョコレート用油脂の販売数量の減少を見込む。米州では、顧客の引き取り遅れにより販売数量が減少し高値原材料の費消が遅れ、採算性が低下したことにより下方修正。

日本：事業全体では販売堅調であるが、チョコレート用油脂の販売数量減少などにより修正。

米州：顧客の引き取り遅れによる採算改善の遅れや新工場のインフラ整備の遅れを見込む。

東南アジア：第3四半期も比較的採算が良い販売が続いたが、第4四半期には平準化を見込む。



業務用チョコレート事業

(単位：億円)

	FY2021 実績	FY2022 修正予想 2023年2月	前期比	FY2022 前回予想 2022年11月	FY2022 前回予想比
営業利益	75	67	▲8	79	▲12
日本	63	52	▲12	60	▲9
米州	2	2	▲0	7	▲4
東南アジア	7	7	+1	10	▲3
中国	1	0	▲1	▲2	+2
欧州	2	5	+3	3	+2
連結調整等	0	1	+1	0	+1

営業利益 修正内容

日本では、価格改定は浸透するも流通菓子や冷菓市場向けの販売数量が減少。ブラマーでは、カカオ加工設備不良により販売数量減少。

日本：下期の消費動向は想定より弱含みだが、土産向けを中心に拡販を進める。

米州：カカオ販売は正常化したが、(ブラマー) 米国の景況感悪化により販売が伸び悩む。

米州：イースター向けの販売の伸長を計画。(ハラルド)

2022年度 通期業績予想 修正内容について



乳化・発酵素材事業

(単位：億円)

	FY2021 実績	FY2022 修正予想 2023年2月	前期比	FY2022 前回予想 2022年11月	FY2022 前回予想比
営業利益	16	16	▲0	19	▲4
日本	18	21	+3	17	+5
東南アジア	▲9	▲4	+5	▲0	▲3
中国	5	▲2	▲7	3	▲4
連結調整等	2	▲0	▲2	0	▲0

営業利益 修正内容

販売価格の改定は進捗する一方、東南アジア、中国での販売数量が弱く前回予想を修正。各エリアの動向に合わせて柔軟に価格戦略、拡販対応を進める。

日本 : クリームなど販売伸長。

東南アジア : 価格対応により採算改善は進むものの、販売数量減少を考慮。

中国 : 第4四半期での拡販進めるも、コロナ影響による経済活動の低迷に伴い販売数量が減少する見込み。



大豆加工素材事業

(単位：億円)

	FY2021 実績	FY2022 修正予想 2023年2月	前期比	FY2022 前回予想	FY2022 前回予想比
営業利益	21	16	▲6	15	+0
日本	20	16	▲4	16	+0
中国	3	3	+0	3	▲0
欧州	▲3	▲4	▲1	▲5	+0
連結調整等	1	1	▲0	0	+0

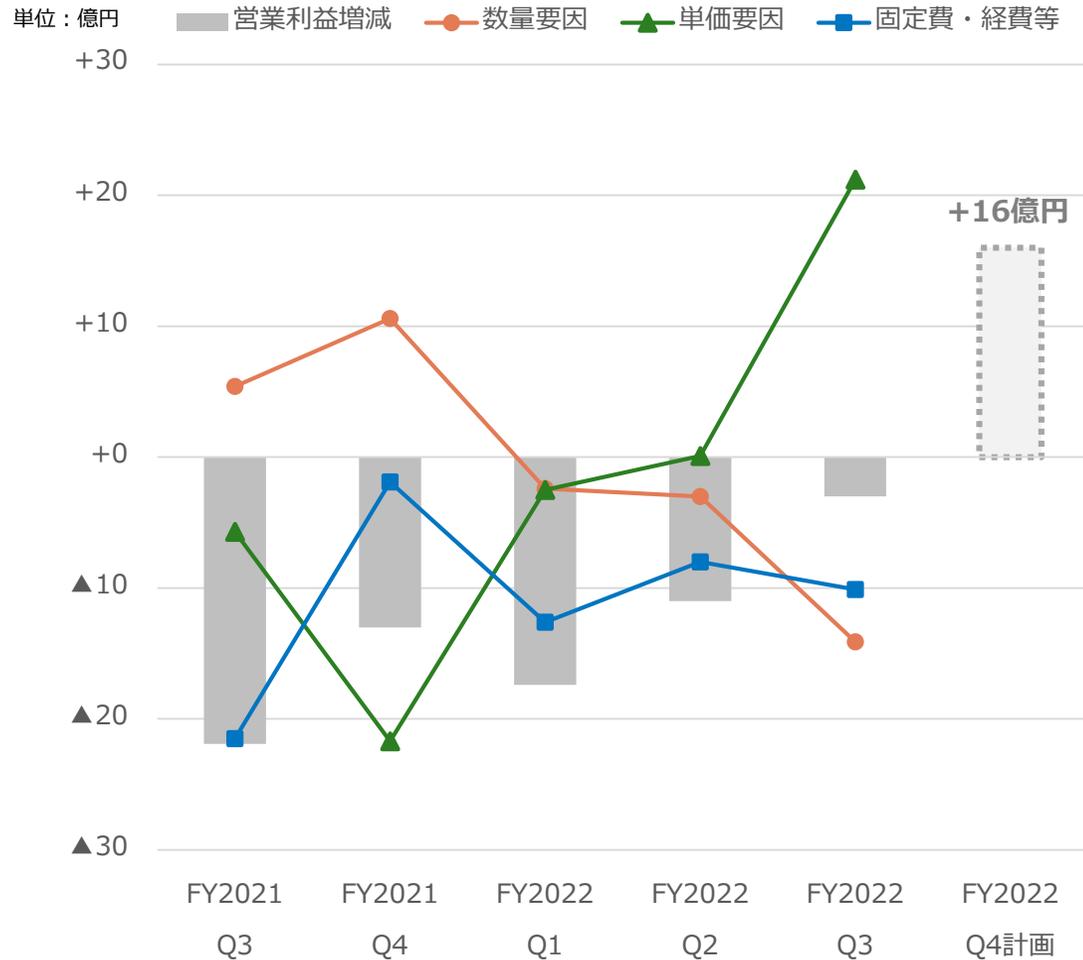
営業利益 修正内容

日本では、大豆たん白素材の販売数量が下回るも、機能剤の販売が伸長し、11月修正予想から大きな変更はなし。

2022年度 通期業績予想 第4四半期での業績改善を確認

価格改定により単価要因は改善。販売数量の減少を修正予想に反映。

営業利益増減 (四半期別 前年同期比)



単価要因

価格改定の浸透や原料価格の落ち着きにより、**第3四半期より大きくプラスに転じる**

固定費・経費等

北米油脂新工場の固定費の負担が大きい

*ブラマー人件費も含まれるが、織り込んで価格改定を実施

数量要因

第3四半期に、大きく落ち込む。
 主な要因は、**ブラマーのカカオ加工設備不良**と、
日本・北米油脂・中国での販売数量減

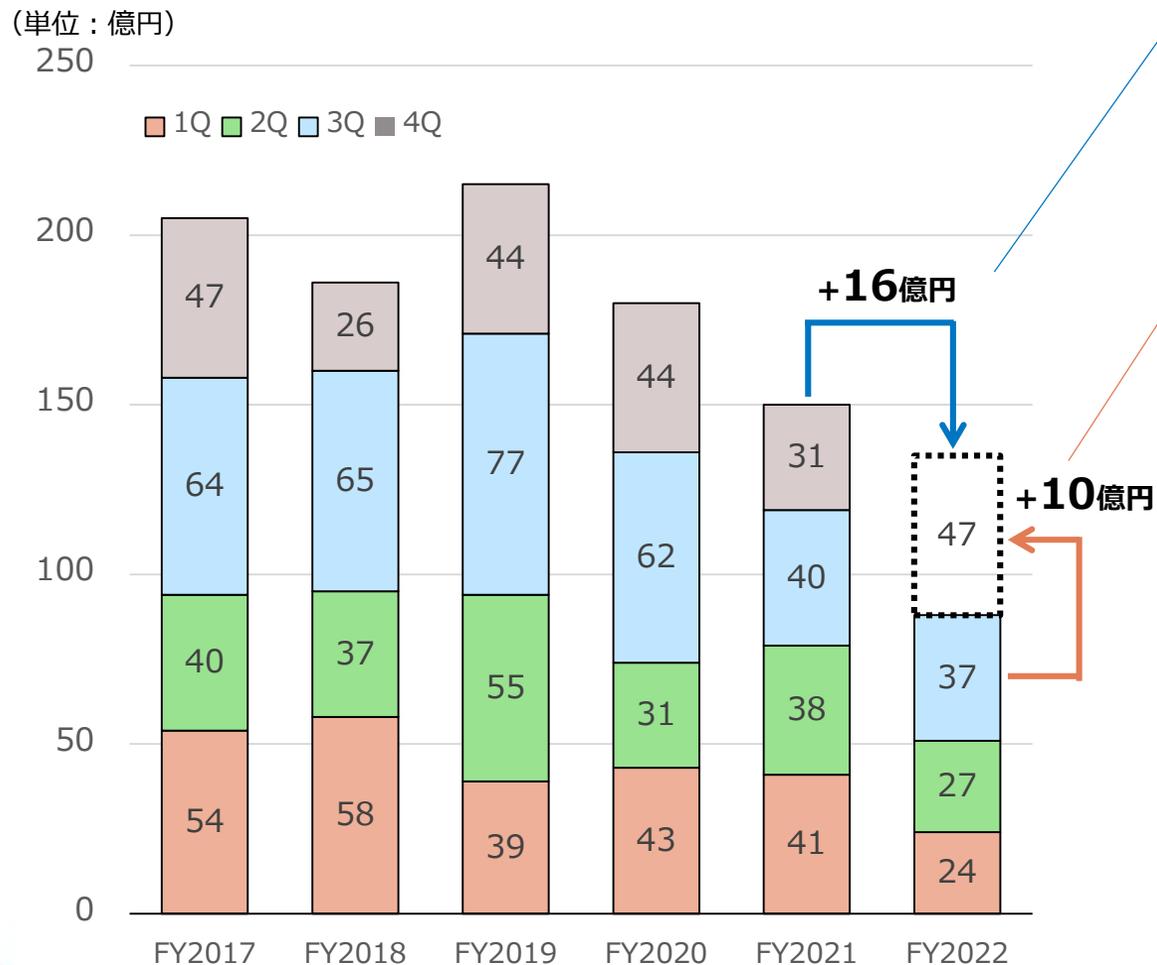
第4四半期の見通し

- ✓ 北米油脂工場では、**インフラ整備が完了し第4四半期より稼働率上昇により固定費負担カバー**する見込み
- ✓ **ブラマーのカカオ加工設備は第3四半期にて復旧**
- ✓ 中国のコロナ禍からの回復期待、日本のインバウンド需要の取込を図るが、**米国・中国・日本の景況悪化からの数量減少を修正予想に反映**

2022年度 通期業績予想 第4四半期での業績改善を確認

四半期別営業利益の推移

第4四半期では、
前年同期比+16億円、前四半期比+10億円を計画



*FY2019は子会社の決算期変更を遡及修正した参考値

前年同期比(vsFY21Q4) 増減

- +16億円**
- +5億円 (日本▲2億円、米州+8億円、東南アジア▲3億円)
 - +3億円 (日本▲6億円、米州+8億円)
 - +7億円 (日本+1億円、東南アジア+6億円)
 - +2億円 (日本+4億円、欧州▲2億円)

前四半期比(vsFY22Q3) 増減

- +10億円**
- +3億円 (日本▲12億円、米州+15億円)
 - +12億円 (日本▲10億円、米州+21億円)
 - ▲3億円 (日本▲7億円、東南アジア+2億円、中国+1億円)
 - ▲1億円

Point

- 米州・植物性油脂事業**

3か月 FY22Q4 /vsFY21Q4/vsFY22Q3
営業利益 9億円/ +8億円/ +15億円

既存工場は、第4四半期から採算改善を見込む
新工場は、稼働率の上昇に伴い販売数量の増加、黒字転換を見込む
- 米州・業務用チョコレート事業**

営業利益 12億円/ +8億円/ +21億円

ブラマーは第3四半期に販売数量が減少したが、第4四半期(11-1月)に収益改善を見込む
ハラルドは、イースター向けの需要が堅調。前年同期比からの販売数量伸長を見込む

通期：売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

(単位：百万円)

売上高	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2022 修正予想 (23年2月)	53,800	+10,413	80,900	+37,061	30,300	+9,318	3,500	+506	32,000	+8,228	200,500	+65,524
	2022 前回予想 (22年11月)	51,500	+8,113	82,100	+38,261	30,800	+9,818	3,500	+506	28,700	+4,928	196,600	+61,624
	2021 実績	43,387	-	43,839	-	20,982	-	2,994	-	23,772	-	134,976	-
業務用 チョコレート	2022 修正予想 (23年2月)	40,100	+563	152,900	+30,667	18,500	+5,960	7,300	+908	6,700	+1,866	225,500	+39,960
	2022 前回予想 (22年11月)	45,200	+5,663	144,400	+22,167	18,500	+5,960	7,300	+908	6,700	+1,866	222,100	+36,560
	2021 実績	39,537	-	122,233	-	12,540	-	6,392	-	4,834	-	185,540	-
乳化・発酵素材	2022 修正予想 (23年2月)	56,700	+5,408	-	-	16,200	+4,219	17,900	+2,028	-	-	90,800	+11,654
	2022 前回予想 (22年11月)	57,700	+6,408	-	-	16,900	+4,919	18,900	+3,028	-	-	93,500	+14,354
	2021 実績	51,292	-	-	-	11,981	-	15,872	-	-	-	79,146	-
大豆加工素材	2022 修正予想 (23年2月)	32,000	▲315	-	-	-	-	1,200	▲652	-	-	33,200	▲967
	2022 前回予想 (22年11月)	36,600	+4,285	-	-	-	-	1,200	▲652	-	-	37,800	+3,633
	2021 実績	32,315	-	-	-	-	-	1,852	-	-	-	34,167	-
売上高計	2022 修正予想 (23年2月)	182,600	+16,067	233,800	+67,727	65,000	+19,496	29,900	+2,789	38,700	+10,093	550,000	+116,169
	2022 前回予想 (22年11月)	191,000	+24,467	226,500	+60,427	66,200	+20,696	30,900	+3,789	35,400	+6,793	550,000	+116,169
	2021 実績	166,533	-	166,073	-	45,504	-	27,111	-	28,607	-	433,831	-

営業利益	年度	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
			前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比		前期比
植物性油脂	2022 修正予想 (23年2月)	3,305	▲501	196	▲137	3,100	+980	▲136	▲147	975	▲261	37	+144	-	-	7,478	+77
	2022 前回予想 (22年11月)	3,699	▲107	1,970	+1,637	2,647	+527	▲147	▲158	1,090	▲146	28	+135	▲115	▲115	9,171	+1,770
	2021 実績	3,806	-	333	-	2,120	-	11	-	1,236	-	▲107	-	-	-	7,401	-
業務用 チョコレート	2022 修正予想 (23年2月)	5,161	▲1,164	235	▲9	705	+54	46	▲89	472	+298	82	+65	-	-	6,700	▲848
	2022 前回予想 (22年11月)	6,035	▲290	670	+426	1,049	+398	▲157	▲292	283	+109	29	+12	-	-	7,909	+361
	2021 実績	6,325	-	244	-	651	-	135	-	174	-	17	-	-	-	7,548	-
乳化・発酵素材	2022 修正予想 (23年2月)	2,114	+320	-	-	▲353	+511	▲179	▲709	-	-	▲2	▲159	-	-	1,579	▲38
	2022 前回予想 (22年11月)	1,661	▲133	-	-	▲4	+860	254	▲276	-	-	34	▲123	-	-	1,944	+327
	2021 実績	1,794	-	-	-	▲864	-	530	-	-	-	157	-	-	-	1,617	-
大豆加工素材	2022 修正予想 (23年2月)	1,630	▲419	-	-	-	-	335	+18	▲438	▲142	62	▲16	-	-	1,589	▲560
	2022 前回予想 (22年11月)	1,608	▲441	-	-	-	-	343	+26	▲450	▲154	39	▲39	-	-	1,540	▲609
	2021 実績	2,049	-	-	-	-	-	317	-	▲296	-	78	-	-	-	2,149	-
連結調整	2022 修正予想 (23年2月)	118	▲32	▲13	▲20	▲13	▲8	21	+18	▲91	▲78	▲32	+131	-	-	▲10	+10
	2022 前回予想 (22年11月)	-	▲150	-	▲7	-	+5	-	▲3	-	+13	-	+163	-	-	-	+20
	2021 実績	150	-	7	-	▲5	-	3	-	▲13	-	▲163	-	-	-	▲20	-
グループ 管理費用	2022 修正予想 (23年2月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,839	▲151	▲3,839	▲151
	2022 前回予想 (22年11月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,065	▲377	▲4,065	▲377
	2021 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,688	-	▲3,688	-
営業利益計	2022 修正予想 (23年2月)	12,330	▲1,797	418	▲166	3,438	+1,536	89	▲910	919	▲182	145	+163	▲3,839	▲151	13,500	▲1,508
	2022 前回予想 (22年11月)	13,002	▲1,125	2,640	+2,056	3,692	+1,790	293	▲706	923	▲178	130	+148	▲4,180	▲492	16,500	+1,492
	2021 実績	14,127	-	584	-	1,902	-	999	-	1,101	-	▲18	-	▲3,688	-	15,008	-

第4四半期以降の考え方について

3Qまでの
振り返り

- ✓ 原材料価格の高騰に応じた販売価格の適正化は着実に進捗
- ✓ 急激な外部環境の変化による、販売数量の減少、成長戦略の遅れ
- ✓ 環境に適応したブラジル・豪州・欧州での着実な成長



4Q以降の
対応

- ✓ 事業軸管理の強化による原料ポジション管理等のリスクマネジメントの徹底
- ✓ 3Qまでに発生した生産課題の着実な対応による生産体制の安定化・強化
- ✓ ポストコロナの市場環境変化への着実な対応（販売戦略・商品戦略・価格政策）
- ✓ 課題事業の支援・強化を促進するための、組織再編と対応強化

販売価格の適正化や環境に適応した着実な成長が進む

日本 全事業

2022年度Q3(3カ月)営業利益 **51億円**

50億円超えは2019年度3Q以来の水準。
価格対応やコスト削減が着実に実績化。

適正価格への改定を継続。
マーケット環境変化に対応し、
新たな価値創造に向けた挑戦を進める。



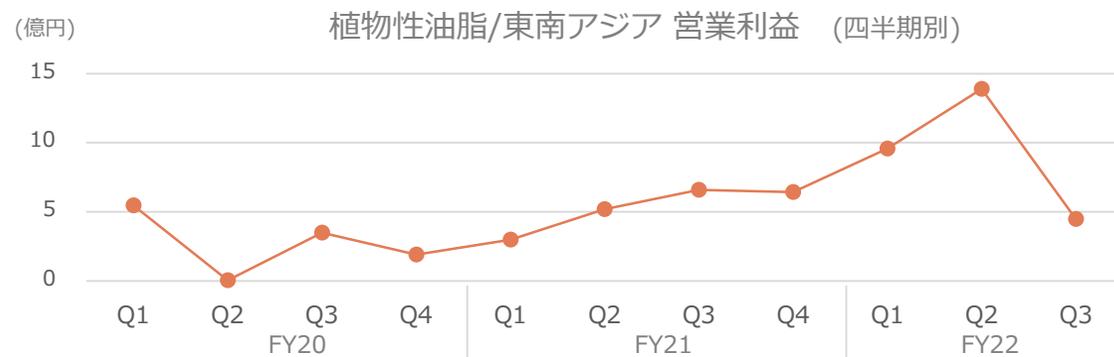
植物性油脂/東南アジア

一過性の需要に加え、認証油の取り扱い増加によりプレゼンス拡大

直近2年間は、一過性需要や追い風となる原料市況による伸長もあるが、認証パーム油の取り扱いを着実に拡大。収益力のベースアップにつながる。

サプライチェーンをより一層強固にすることで、社会の需要に応える体制を構築する。

*パーム油取扱総量に占める認証油調達量の割合 2018年 約**17%** → 2021年 約**41%**

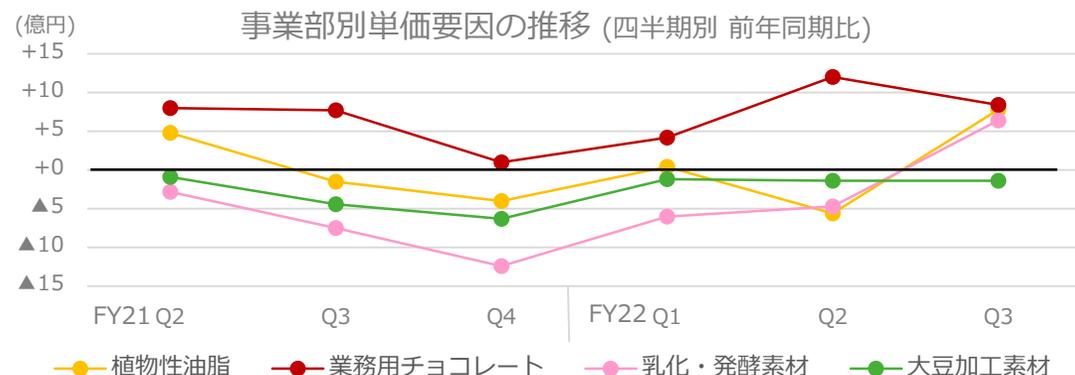


価格改定の実行

上期は原料高で苦戦も、第3四半期に価格改定効果が現出

販売価格改定に注力。2022年度はブラマーの価格改定が大きく寄与。油脂、乳化・発酵も第3四半期には原料価格上昇分を上回る。

主原料であるパームの原料価格は落ち着いたものの、諸費用の高騰が続く。継続した改定を実施。



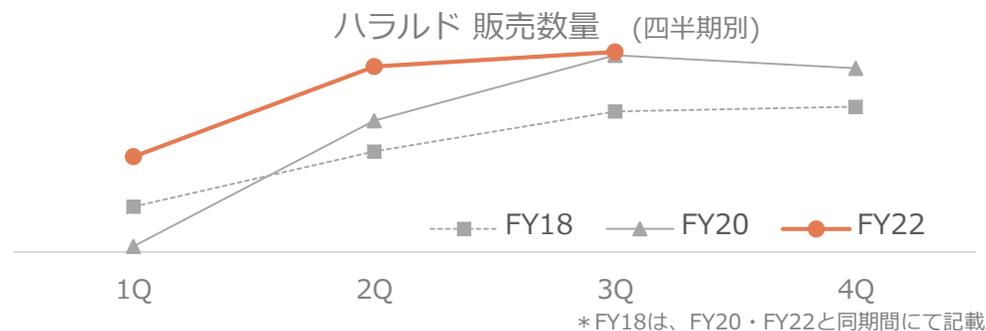
販売価格の適正化や環境に適応した着実な成長が進む

ハラルド 業務用チョコレート事業/米州

施策が奏功し、販売数量が着実に増加

生産性改善に加え、市場・製品のマトリクス管理により、需要を獲得。

- ・ 2023年度に新工場稼働。需要に応じた生産体制を構築。
- ・ 製品ミックスの改善を進める。

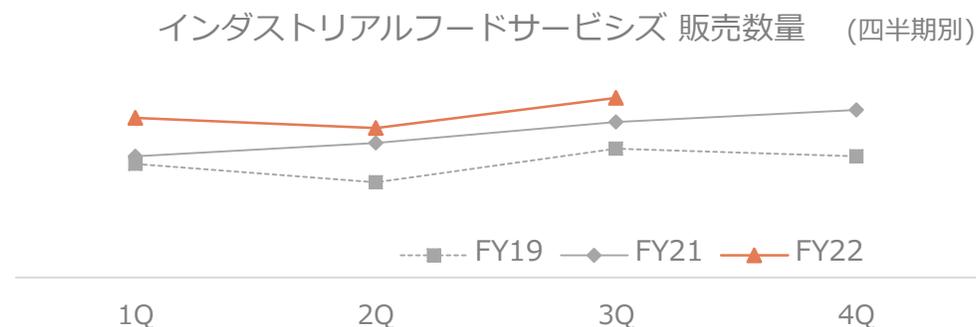


インダストリアルフードサービス 業務用チョコレート事業/東南アジア(豪州)

業務用での需要が拡大。フル生産が続く

2018年度に子会社化。流通菓子メーカー向けなどの堅調な需要を獲得し、工場のフル生産が続く。グループ本社より生産指導を実施。

- ・ グループ本社からの技術支援により生産性を改善し、需要への対応を進める。

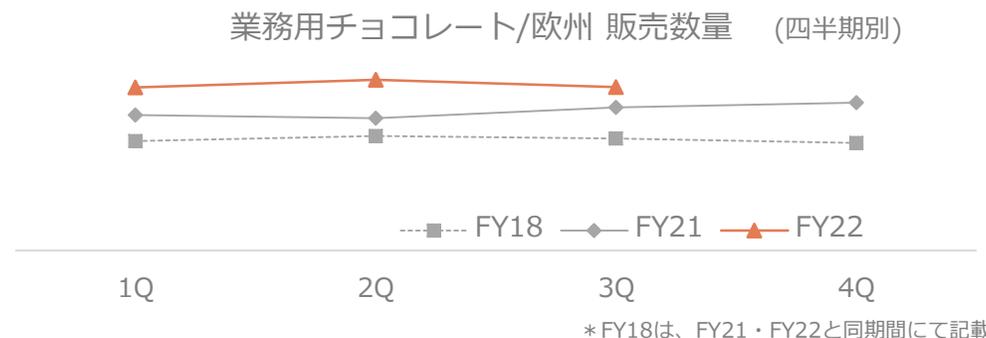


業務用チョコレート/欧州

需要を取り込み、設備増強も奏功

油脂を活用したチョコレートが顧客の需要をとらえ着実に販売数量が増加。継続した設備投資も寄与し販売数量は継続して増加。

- 引き続き需要の獲得と数量増加により、事業拡大を進める。



重点課題事業への対策

植物性油脂/米州

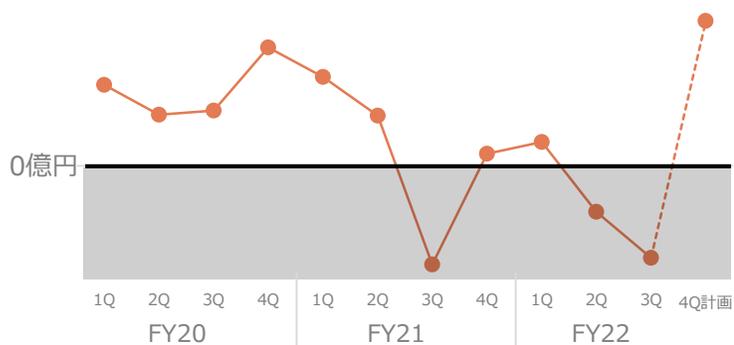
今期
施策

新工場稼働により、旺盛な米国南部での植物油脂の需要を取り込む。

課題

新工場は、ロジスティクスの混乱及びインフラ設備の建設遅れにより出荷の遅れが発生。既存工場も、顧客の在庫調整による販売の遅れ、高値の原料在庫による採算性の低下により収益悪化。

北米油脂 営業利益 (四半期別)



今後の
対策

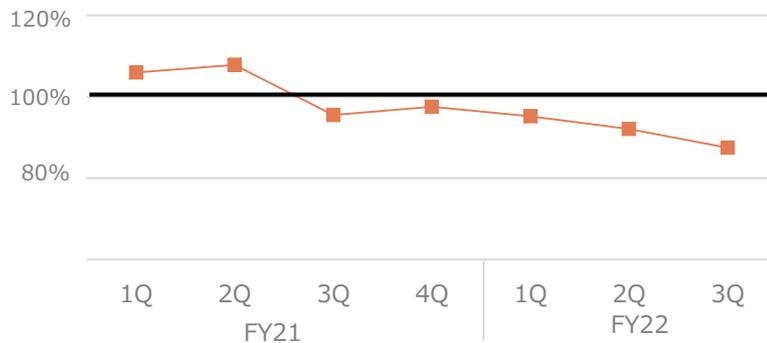
新工場のインフラ設備は完工。4Qでは当初計画の生産・出荷体制が実現。既存工場も4Q以降は採算性が改善する見込み。

ブラマー 業務用チョコレート/米州

価格改定により収益性を改善。販売数量は前年並み。設備投資・生産性の改善を進める。

価格改定は計画通り実施し、収益に大きく寄与。しかし、カカオ加工設備不良により販売数量減少・採算低下。また、消費需要が弱く、顧客の在庫調整により引取遅れなどが発生。

ブラマー 前年同月比販売数量 (四半期別)



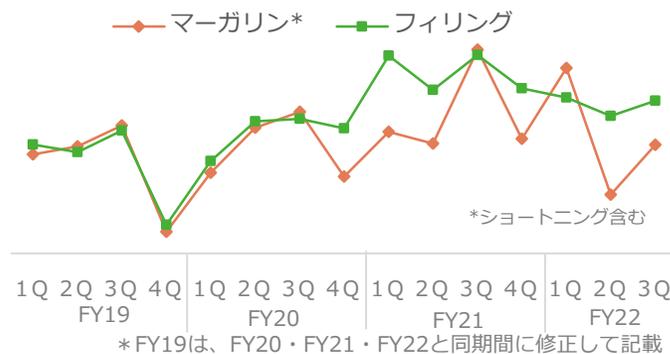
カカオ加工設備は復旧済み。需要動向には引き続き注視も、価格対応は継続実施。従業員への教育・トレーニングを強化し、生産性改善を進める。

乳化・発酵/中国

コロナ鎮静化による経済回復・ベーカリー市場拡大を捉え、拡販を図る。原料高に応じた適正価格の実施、新製品提案。

価格改定は実施するも、ロックダウンによる新規顧客の獲得や新製品提案の遅れ、需要低迷による販売数量の減少。

中国 乳化・発酵製品 販売数量 (四半期別)



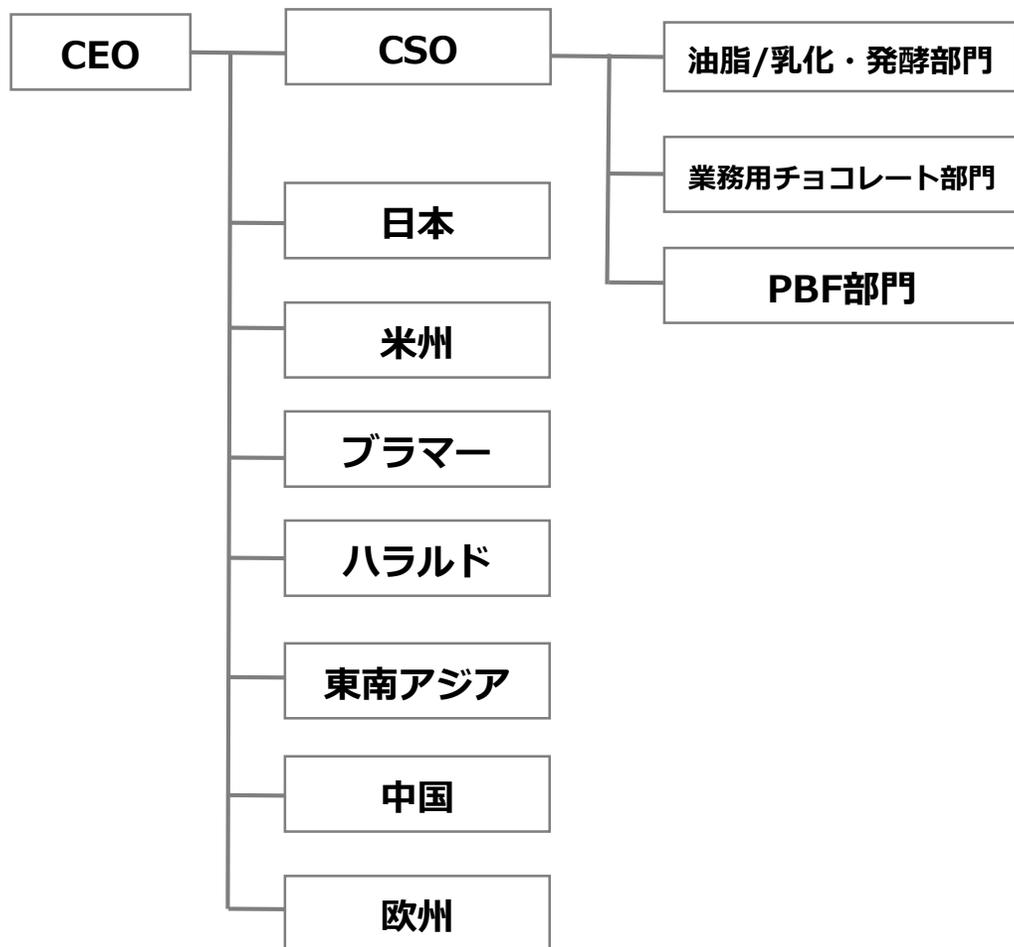
4Q以降、コロナ禍からの回復を見込み、新製品の提案活動の再開等、営業活動を強化する。一方、徹底したコスト削減も実施。収益の改善を進める。

4Q以降、早期の収益回復・成長を目指す。

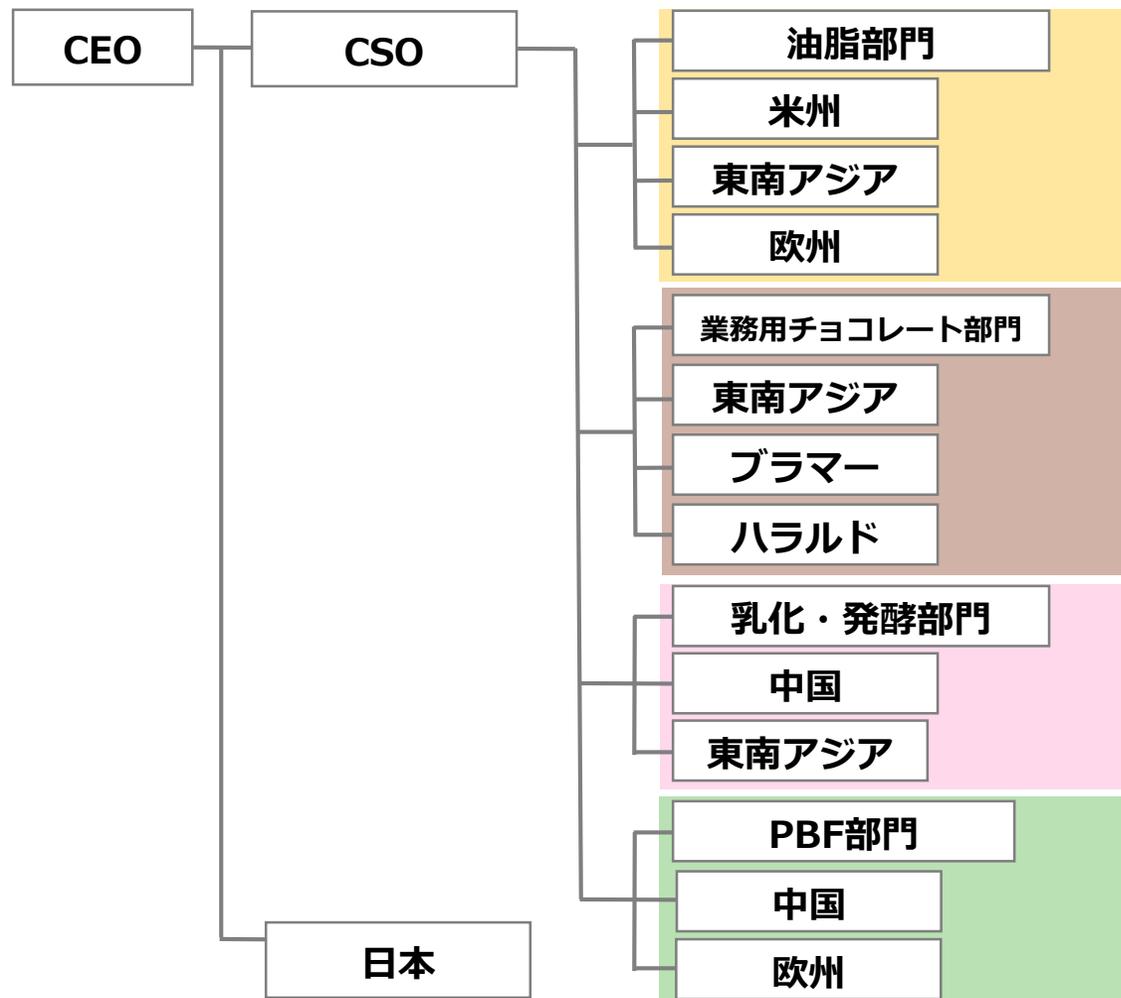
課題事業の支援・強化を促進するための組織再編

各エリアによる対応・個社最適から、より事業最適を目指した事業軸に重点を置いた組織形態に

現体制 *イメージ



新体制 (2023年4月～) *イメージ

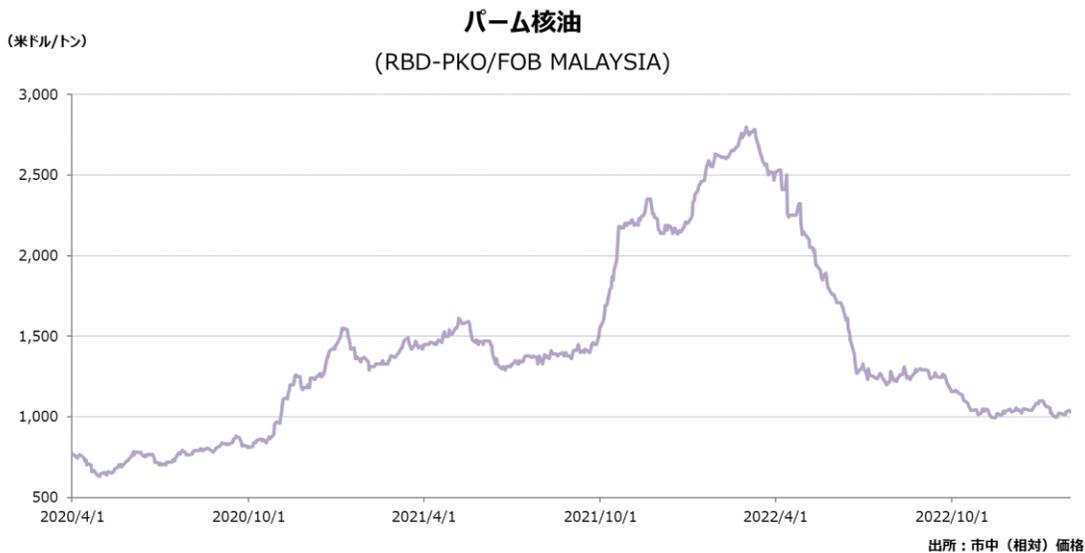
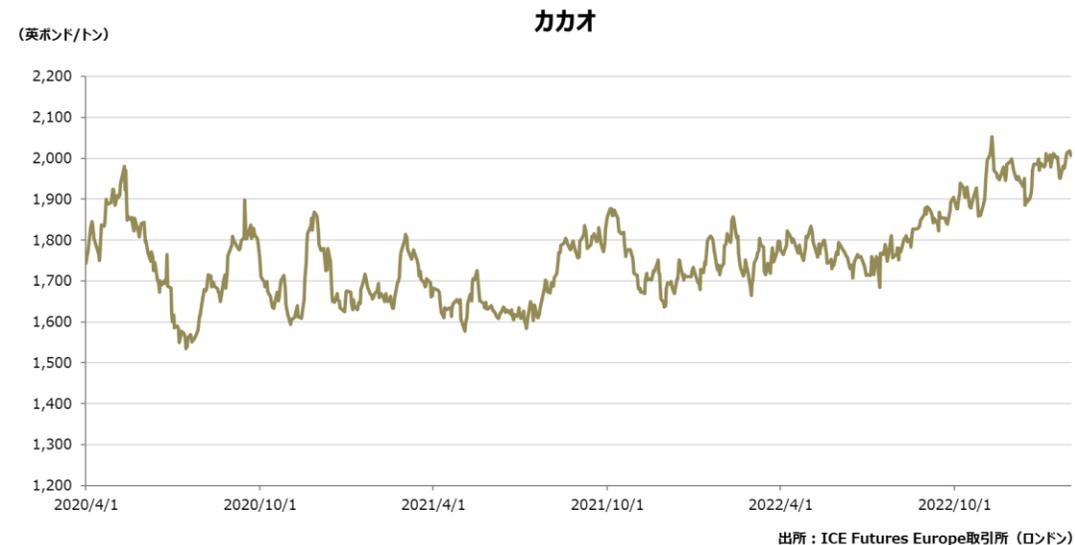
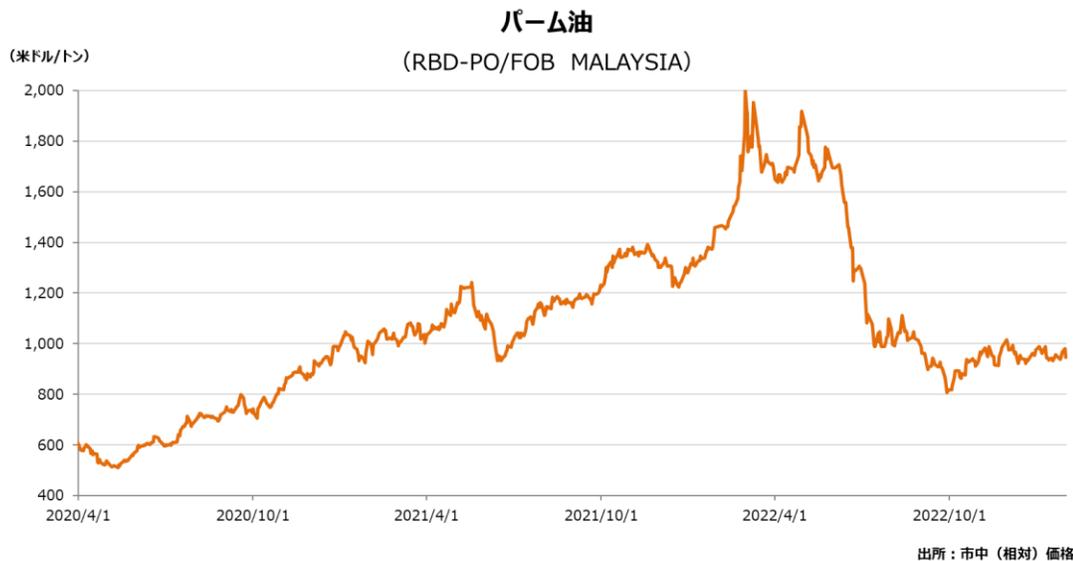


3

参考資料



主要原料推移 (～2023年1月31日)



不二製油グループ本社株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。